

..... 編集後記

◆わが家の花畑と芝生の境界に植えたコノテカシワの木が大きくなりすぎて花が育たないので、春過ぎに切り縮めました。切り株から新芽が成長してきていたのですが、日当りの良くなった草花がそれを覆い隠してたくさんの美しい花を楽しませてくれました。先日、花も終わったので草花を除去しましたが、根が十分に張っているの草花には負けなと思ったコノテカシワの木は枯れていました。しみじみと太陽光線の力は凄いものだと感じさせられました。今年は各地で日照不足のため野菜不足が心配されていますが、皆さんの所はどうですか。

◆甲信越の地質情報展が終わってほっとする間もなく北陸テクノフェアに参加するため、展示物を携げて福井市に行ってきました。帰路、親不知の北側の青海のヒスイ海岸に立ち寄りました。1時間程度、緑色の石集めに専念しましたがヒスイらしき物を発見できませんでした。甲信越地質情報展で展示された20cm大のヒスイの値段が自動車1台分と聞いて欲ばけになっている我々はヒスイ海岸が駄目なら本家のヒスイ峡に行けばと期待に胸を膨らませて車を走らせました。大糸線の小滝駅から進路を右に取り、車が転落しそうな道を進ること数十分でヒスイ峡の展望台に到着しました。対岸は雲を突くような断崖絶壁で、はる

か下を流れる川底の白い転石がヒスイの原石だと説明されていましたが、残念ながら川底は立ち入り禁止でヒスイを手に入れることはできませんでした。小滝駅近くの河原でも試みましたが未発見に終わりました。もっとも、ちょっと行っただけで発見できるようなヒスイは珍重されないでしょう。

◆さて、今月号は東欧の鉱物資源の特集の続編を中心に紙面が構成されています。ここに紹介されている鉱物資源もヒスイと同じで地球上で均一的に存在しているものではありません。もし鉱物地下資源がどこにでも簡単に見つかるのであれば、希少価値はなくなり、地質屋は失業です。最近では、プレート運動と鉱化作用の関連が論じられるようですが、どうして日本に押し寄せたプレートは鉱物資源の元の少ないものばかりだったのかと地球を作った神様に物申したくなります。この特集の掲載について著者の一人である神谷さんと議論しましたが、「現在では、資源問題は一国の事情で論じるものでなく、地球規模で考える問題」とのことです。その意味でご一読下さい。

◆地下水位と地盤変動の関係が関東平野を例として関氏等によって詳細に紹介されています。研究史も解説されており、学問の発展の歴史を考える上で大変感慨深いものがあります。是非、ご一読下さい。

(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係（谷田部信郎・吉田朋弘）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第531号	1998年	11月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
1998年11月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 カゲヤマ		

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。